



SAKAKIBARA
HEART
INSTITUTE

Heart to Heart

2019年
6月



4月からの新体制について

新しい医師を多数迎え、診療体制をより充実させました。

心臓血管外科 成人



<入職>

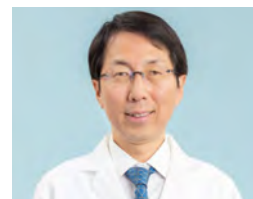
主任部長 下川 智樹



特任副院長 高梨 秀一郎

※高梨医師は、特任副院長として引き続き診療を行います

循環器内科



<入職>

主任部長 七里 守

入職のご挨拶



新しい術式も幅広く選択肢としながら、
患者様に一番良い治療法を
チームで検討いたします

成人心臓血管外科 主任部長 下川 智樹

このたび成人心臓血管外科部長として着任させていただきました。私は1992年に佐賀医科大学を卒業後、胸部外科に入局しました。榊原記念病院には1995年から専修医としてお世話になり、3年間の研鑽を積ませていた



できました。2002年から再び当院で多くの手術を経験させていただき、2009年に帝京大学病院で心臓血管外科学講座を独立して立ち上げる際に主任教授として赴任し、現在に至っております。

帝京大学病院ではオフポンプ冠動脈バイパス術や自己弁を温存した弁形成術などのほか、小開胸で行う低侵襲心臓手術（MICS手術）や手術支援ロボットda Vinci®を使用した心臓手術なども手掛け、また、重症心不全患者に対する補助人工心臓治療も経験致しました。自らが研修を積ませていただいた病院でもう一度働く機会を得、大学病院での教育経験を活かして、これまでの自分の経験を若い先生方に伝えていきたいと思います。

社会の高齢化に伴って、フレイルな患者様が多くなっています。そのような患者様は動脈硬化が強く、呼吸機能

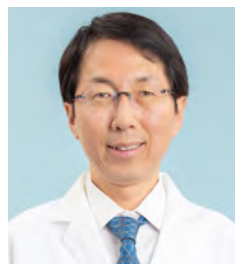
や腎機能も低下している場合が多くありますし、入院が長引くとそのぶん体力が低下しやすくなります。循環器専門病院の強みを生かして循環器内科やリハビリテーションの先生方と連絡を取り合い、従来の開心術はもちろんのこと、経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）・僧帽弁形成術（MitraClip®）、ステントグラフト治療などの新しい術式も幅広く選択肢として視野に入れ、手術前の心機能および身体機能の評価を総合し、患者様にとって最適な治療方法をチームとして検討していくことで、よりよい治療結果を得られるものと思います。

一方、当院の特徴として、働き盛りの患者様が比較的多いという面もあります。そのような患者様には可能な限り早く仕事復帰ができる手立てを考える必要があります。胸骨切開を行

わないMICS手術は、胸壁を数cm切開し、内視鏡で術野を確認しながら、細長い鉗子を使用して手術を行います。MICS手術のメリットは、創が襟元から見えない美容的な満足感、少ない出血量、創部痛が比較的早くに軽快する、などが挙げられます。胸骨を切らないので、術後早期から重いものを持ったり運動を含めた上半身を捻る運動を行うことができ、社会復帰・仕事復帰が早くなります。創は小さいですが、3D内視鏡カメラで近接して病変部をより詳細に観察することができるので、手術のqualityはむしろ高くなると考えています。

地域の皆様に安心して心臓の治療を受けていただけるよう、スタッフ一同努めてまいりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

入職のご挨拶



地域の皆様から信頼いただき、最新の侵襲的検査・治療を安全に実施していきます。

循環器内科主任部長 七里 守

2019年4月より循環器内科主任部長として赴任しましたので、ご挨拶申し上げます。

私は1991年に名古屋大学を卒業後、聖路加国際病院の内科レジデントとして研修を始めました。1994年に名古屋大学第一内科へ入局し、名古屋大学第二赤十字病院において循環器内科を研修しました。その後同病院の循環器内科副部長を拝命し、心血管インターベンションと心臓核医学を専門として虚血性心疾患の診療に従事して

まいりました。2004年から1年間米国のマサチューセッツ工科大学とブリガムウィメンズ病院へ留学し、薬剤溶出型ステントと経皮的僧帽弁治療法の開発に参加しました。留学後は名古屋第二赤十字病院へ戻り、2009年より循環器内科部長を拝命し、成人先天性心疾患患者さんの受け皿を作るべく小児循環器科とともに心房中隔欠損症、動脈管開存症のカテーテル治療を立ち上げました。

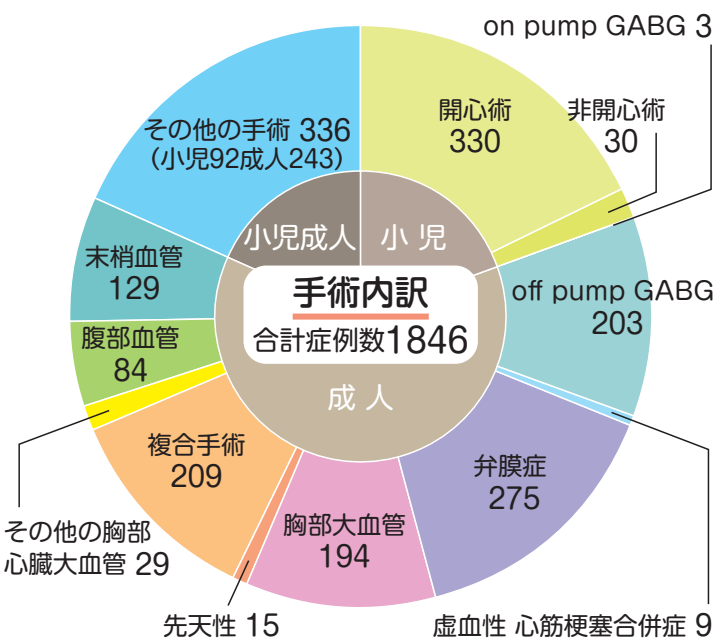
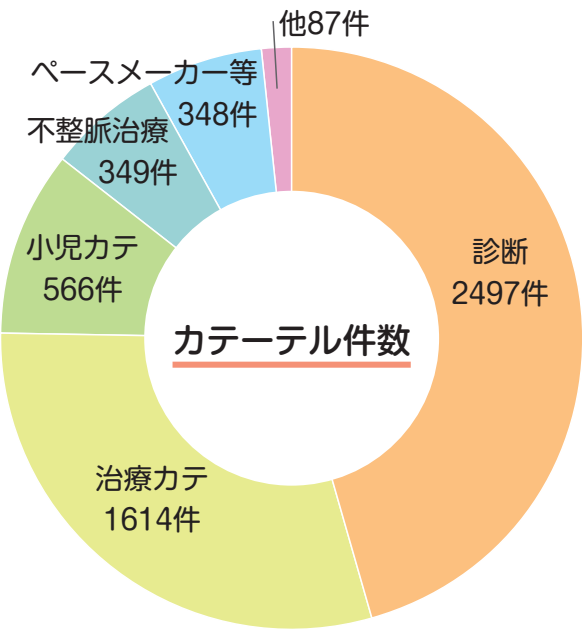
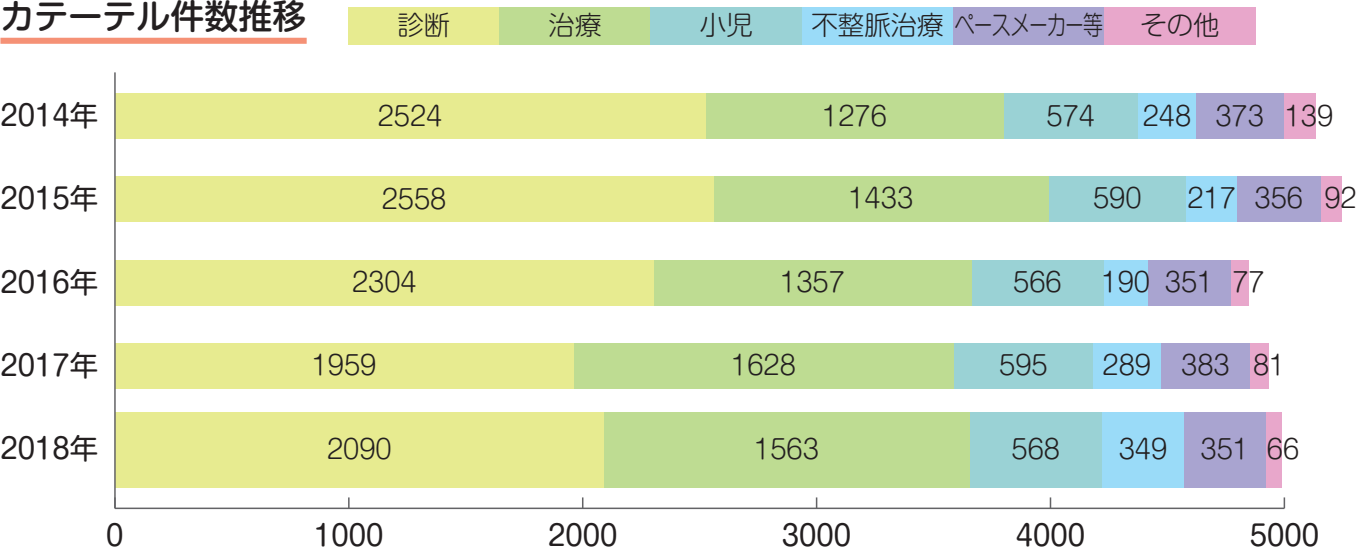
留学時代を除けば、ずっと臨床病院

で働いてまいりました。カテーテル治療を中心に診療を行ってまいりましたが、地域の先生方と患者さんから信頼いただいて、初めて侵襲的検査・治療へ進むことができます。カテーテル治療の領域において榊原記念病院は常に国内の最先端施設でした。近々認可が予定されている脳梗塞予防のためのカテーテル治療である左心耳閉鎖術・卵円孔閉鎖術についても早期に導入していく予定です。

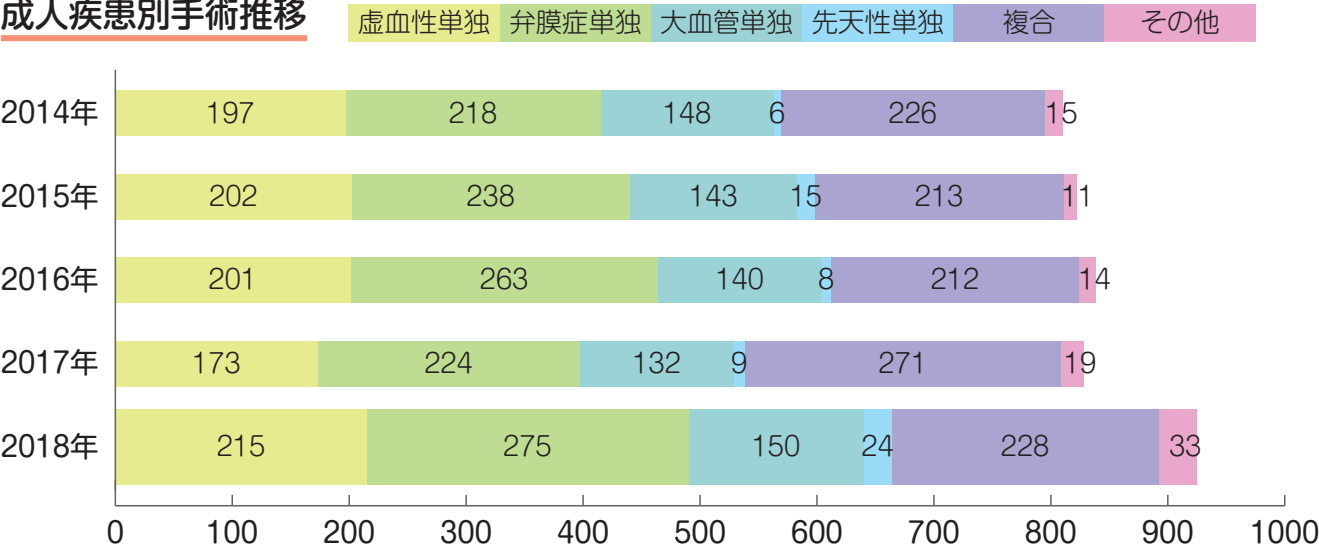
25年ぶりに東京へ戻ってまいりました。地域は違って求められる医療は同じです。これまで培われてきた地域の先生方からの信頼を、さらに揺るぎないものとするために努力してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

2018年の主な診療実績

カテーテル件数推移



成人疾患別手術推移



モバイルCCU (心臓病専用救急車)

循環器専門病院として、
当院では迅速で適切な循環器救急医療を提供できる体制を整えています。

その一環として、今年度より心臓病専用救急車「モバイルCCU (Mobile Coronary Care Unit: 移動式心臓集中治療施設)」を導入することとしました。

連携医療機関からの要請に迅速に対応することができるようになります。



受診のご相談～外来受診の予約方法～

電話 (医療機関専用)



042-314-3142

ご症状、受診希望日、ご希望の医師のほかに、患者様の氏名、生年月日、ご連絡先をうかがいます

FAX (医療機関専用)



042-314-3199

外来予約申込用紙をFax送信してください

ホームページ



<http://www.hp.heart.or.jp/>

お急ぎの方は、電話、FAXをご利用ください

救急のご相談



救急は、24時間365日お受けしております。

代表電話あるいは医療連携室（夜間休日は代表に切り替わります）にお電話にて救急であることをお伝えください。

入院要請は救急での相談となります。

お願い 予約調整のために事前に診療情報提供書等のFAX、もしくは、ご郵送をお願いすることがあります。

お問い合わせ先

医療機関様専用

電話 (医療連携室直通) 042-314-3142

FAX (医療連携室直通) 042-314-3199

受付時間

平日 月～金 9:00～17:20

休日 第1・3・5土 9:00～13:00
(祝日、年末年始を除く)

患者様へのご案内は
こちらの番号を
お願いいたします

外来予約の場合 専用番号 042-314-3141

ご予約以外のご用件 代表番号 042-314-3111

対応時間

平日 月～金 9:00～16:00